

2017年1月号

Vol. **52**

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目1-1
TEL : 082-815-5211 (代表)
<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>



新年のごあいさつ

皆さま、明けましておめでとうございます。また、いつも「まめでが〜んす」をご愛読いただき誠にありがとうございます。新たな年の始まりに当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

昨年いろんなニュースがありました。その中でも広島東洋カープが25年ぶりのセリーグ優勝を決めたその瞬間、市民県民だけでなく全国のカープファンは歓喜のあまり、思わず涙された方も多かったのではと思います(私もその一人です)。さらに11月には、これまた41年ぶりという優勝パレードが平和大通りで行われ、沿道を約31万人もの人たちが埋め尽くしました。セリーグ制覇の喜びと日本一を逃した悔しさをバネにして、今年はぜひとも日本一の栄冠を勝ち取ってみたいものです。

さて、当院を含む市立4病院の経営者が「広島市」から「地方独立行政法人広島市立病院機構」に移行して間もなく3年が経過しようとしています。移行したことのメリットを最大限に活かしながら、これまで職員一丸となって患者さんへの安全で安心な医療と快適な療養環境の提供、地域の先生方との連携による地域医療、救急医療の水準の向上、さらには高度で最新の医療などに取り組んでいるところです。

こうした中、当院は昨年6月、地域医療の確保に大きな役割を果たし、経営が健全な「自治体立優良病院」として全国自治体病院協議会から表彰を受けました。まさにこれは当院職員がこれまで積み重ねてきた取組みの成果であり、これを一つのステップにしてこれからも各職場の職員一人ひとりが自信と誇りをもって職務に励んでくれるものと期待しています。

また、当院の建替えにつきましては、一昨年の9月に将来の安佐北区のまちづくりに資する「分化整備」方針が決定され、高度・急性期医療機能、災害拠点病院としての機能などは亀山南の荒下地区に移転整備し、日常的に高齢者等の地域住民が受診できる機能は現在地(北館)に整備することになりました。これらの整備に向けた作業が着々と進められており、荒下地区に整備する病院については昨年10月に基本計画を策定し、次の段階である基本設計に間もなく着手する予定です。一方、現在地に整備する病院についても、設置・運営方法などについて、当機構、広島市、安佐医師会との間で協議が進められています。いずれの病院も平成31年度から建設(改修)工事に着手し、平成34年の春の開業を目指します。引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、皆さまのご健勝とご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶といたします。



事務長

高本 彰彦

安佐市民病院の理念と基本方針

理 念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。

インフルエンザの季節到来

インフルエンザが流行する時期が近づいてきました。この原稿をかいているのは11月ですが、今年はずでにインフルエンザ患者がみられています。

・インフルエンザの症状

インフルエンザは、風邪では通常みられにくい38℃以上の発熱や頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。風邪でもよくみられる、のどの痛みや鼻汁、咳などの症状もみられます。このような症状がみられる場合には、早めに医療機関を受診してください。



呼吸器内科副部長
山根 高

・なぜ冬にインフルエンザは流行する？

インフルエンザウイルス抗原は毎年変異していますが、これが大きく変異すると大流行となります。

インフルエンザウイルスは飛沫感染(咳やくしゃみなどにより運ばれる)によって感染し、空気が乾燥し、気温が低い冬季に感染が拡大しやすいといわれています。例年、季節性のインフルエンザは11月ごろから感染者が報告され始め、4月ごろに終息するというパターンを繰り返しています。咳やくしゃみで感染するため、咳エチケットとして咳が出るときはマスクで感染拡大を予防する必要がありますし、自己防衛としてマスクで感染を防ぎましょう。

・インフルエンザの合併症

インフルエンザの流行と拡大は、小学校で始まると考えられています。小学生は罹患率が高く、それが家庭内で成人、そして高齢者に感染し一般社会へ拡散します。逆に高齢者は罹患率が低いものの死亡率が高いのが特徴であり、近年はインフルエンザ感染による死亡のほとんどを高齢者が占める傾向が続いています。合併症として、細菌の二次感染による肺炎などの気道感染症、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の増悪などがあり、これらが生命予後を悪化させます。

・インフルエンザの予防

インフルエンザワクチンの接種が最も効果的な予防手段となります。また、インフルエンザワクチンの接種により免疫を獲得しておくことで、重篤な合併症や死亡を予防し、健康被害を最小限にとどめることが期待できます。特に65歳以上の高齢者においては、インフルエンザワクチンの接種により約45%の発病を阻止し、約80%の死亡を阻止することができたと報告されています。公衆衛生的な予防としては、人ごみを避け、マスクの着用、外出から帰ったときの手洗い・うがい、適度の湿度設定とバランスの良い栄養摂取と休養・睡眠の確保があります。ワクチンと上記公衆衛生的な予防はともに重要であり、インフルエンザに注意してこの冬をのりきりましょう。



安佐市民病院



近隣地域の中学校の生徒が作成した絵画等の作品を当院で展示をしています。南館1階の売店付近の壁に展示しておりますので、ぜひご鑑賞ください。

